

目的

背景

検討の方向性

これまでの検討・当面の検討課題

今後の検討例

建設工事の品質確保
・
建設産業の健全な発展

建設生産システム等をと りまく環境の変化

- ・下請構造の重層化にと
もなう元請・下請関係の
変化
- ・施工の規格化、工場製
品の増加
- ・i-Construction等の生産
性向上の取組の推進等

工事の品質確保に対す る信頼性の揺らぎ

- ・不正事案の発生
- ・技術力の低下 等

今後の大量離職に伴う技 術者の不足

- ・高い高齢化率
- ・入職者の減少、高い離
職率
- ・若手技術者の活躍機会
の減少 等

①時代の変化に対応し
た技術者制度の基本
的枠組みの再検討

②不正行為を生じさせない
仕組みづくり

③適正な技術・技能を
持った者(有能な者、
分野に相応しい者)に
よる施工

④若年齢から活躍できる
機会の付与(モチベー
ションの向上)

⑤働き方改革(職場環
境の改善等)を阻害
する要因の排除

技術者の役割の再整理

- ・元請と下請の技術者の役割の明確化

技術者の効率的・合理的な活用

- ・技術者の途中交代の運用改善
- ・余裕期間の配置の運用改善
- ・官公需適格組合における在籍出向
- ・金額要件の引き上げ
- ・非専任期間の弾力的運用

技術者の責任の明確化

- ・元請と下請の技術者等の責任の明確化
- ・工場製品等に関する品質管理のあり方

役割に見合った技術者の配置

- ・民間資格の活用(解体工事、基礎ぐい工事)等

若手技術者が活躍できる環境整備

- ・技術検定の受験要件の緩和
(実務経験年数の緩和、2級学科の早期受験
化、1級学科の早期受検化)
- ・技術検定の受験機会の拡大
(2級学科の年2回実施、会場数の拡大)
- ・学科試験合格者(技術検定)への名称の付与
- ・大規模工事における監理技術者等を補佐する
技術者の配置

役割に応じた配置・専任要件の基本的
枠組みの再検討

- ・技術者の役割の検証
- ・配置・専任要件の検証
- ・現場の多様化(技術的難易度、重
要性等)に応じた効率的な専任要
件の設定

悪質行為の根絶

- ・倫理意識の高揚
- ・悪質行為者に対する処分規定の導
入

技術者の責任の明確化と資質評価

- ・技術者の資格、実績等の見える化、
継続教育(CPD)の評価

役割に見合った技術者の配置

- ・監理技術者等への有資格者配置
の推奨(適切な資格の設定等)

若手技術者が活躍できる環境整備

- ・技術検定の受験要件の緩和
(学科合格者の実地試験時におけ
る試験免除の拡充)

役割に応じた配置・専任要件の基本的
枠組みの再検討【再掲】

建設産業に係る今後の政策検討の進め方(案)

人口減少・高齢化が進む中であっても、経済成長と国民生活の安全・安心の基盤である建設産業が生産性を高めながら「現場力」を発揮できるよう、建設産業の将来展望を踏まえつつ、以下の課題について検討。

建設産業の発展性・収益性

<発展分野への展開>

課題①:

長期的には、人口減少・高齢社会に伴う国内経済活動の縮小が想定される中、海外建設市場への展開をはじめ、いかにして建設産業のウイングを広げていくか。

(検討課題例)

- ・海外建設市場への展開
- ・請負以外の分野への展開
- ・PFI・PPPへの展開
- ・プロジェクト・マネジメント能力

<経営力と生産性の向上>

課題②:

他産業と比較して依然として収益性(営業利益率等)が低い中、いかにして生産性を向上し、企業経営力を高めていくか。

(検討課題例)

- ・川上段階(設計等)も含めた建設生産システム全体での生産性の向上
- ・現場のみならず企業としての生産性の向上
- ・生産性向上のための企業評価
- ・法務・財務・経理能力の向上
- ・生産性向上のための技術者の適正配置

建設産業の持続性

<人材の確保>

課題③:

労働力人口が減少し、他産業との人材獲得競争が激化する中、いかにして有能な技能労働者・技術者を確保し、建設産業の供給力を維持していくか。

(検討課題例)

- ・技術者の適正な配置のあり方等
- ・技能労働者の役割
- ・安定的な雇用環境の条件整備(労働の平準化等)
- ・職歴の評価
- ・技能労働者を有する専門工事業者の評価のあり方
- ・地域の連携・協働による、技能労働者の確保・育成
- ・適正賃金や週休2日など更なる処遇改善

<地方における役割の維持>

課題④:

後継者難や規模縮小が懸念される地方建設会社が、いかにして災害対応や地域貢献をしながら事業を継続していくか。

(検討課題例)

- ・施工能力を維持しながらの事業承継や譲渡に向けた環境整備(後継者難への対応)
- ・災害時に活躍する建設会社の評価(経審、総合評価)
- ・地方建設会社が安定して事業機会を確保できる仕組み

受発注者間の信頼構築

<建設工事の信頼性の確保>

課題⑤:

建設工事の信頼を揺るがす事案が相次いでいる中、いかにして施工不良等を未然に防止し、発注者、ひいては消費者からの信頼性の高い産業としていくか。

(検討課題例)

- ・建設生産システム全体での品質確保
- ・施工に関するコンプライアンス
- ・工場製品の品質管理
- ・建設生産システム全体の紛争調整
- ・適正な施工に向けたガバナンス

<発注の改善>

課題⑥:

今後技術職員の不足等が見込まれる中、いかにして効率的かつ持続的な発注制度を構築し、普及させていくか。

(検討課題例)

- ・CMの導入促進
- ・簡素で効率的な発注方式
- ・発注時期等の平準化

<課題解決に向けた検討>

上記の課題等に応じて、建設業許可制度、請負契約、経審、技術者制度、入札契約制度など、建設業関連制度の基本的な枠組みについて、再検討を行う。 ➡ **新たな検討の場を設置**